日本地方財政学会に参加して

5 月 28~29 日に日本地方財政学会第 13 回大会が大阪経済大学で開催された。会場は新幹線から見えるキャンパスではなく、その近くの「70 周年記念館」であった。シンポジウムなどに活用しやすい素敵な会場であり、本学もこんな施設を設置して地域連携を推進したいと思った。この頃は学会に行っても、つい「法人化」のことが気にかかる。困ったものだ。

今回の学会でとりわけ興味深かったのが、1 日目の「財政危機と地方財政運営の新機軸」と題した全体シンポジウムであった。写真にあるように、重森暁大阪経済大学学長(昨年 11 月に就任されたとのことで、重森さんらしい名学長を期待)をコーディネータとし、シンポジストは片山義博鳥取県知事、北川正恭早大教授(前三重県知事)、富野暉一郎龍谷大教授(元逗子市長)、松島貞治泰阜村長の 4 氏である。

シンポジストの報告は、それぞれ特色と個性があり示唆に富むものだった。なかでも片山知事の公共事業や予算改革についての報告は、自らの体験を踏まえたもので説得力があった。岩波から『改革の技術—片山知事の挑戦』という本が出ているが、じっくり読んでみたい。それと松島村長がいつもの語り口で「自律」を選択した村の現実と課題を報告したのも印象に残った。ご夫妻で懇親会にも参加されたので、挨拶できて嬉しかった。村長に SBC 放映のビデオを講義で活用している言ったら、喜んでもらえた。ついでに村長のカラオケの腕前も話題にした。

(6 月 2 日　記)